

—令和2年度浄土宗人権センター活動報告—

1. 浄土宗人権センター

平成31年4月より新たな体制で浄土宗人権センターが開設し、浄土宗の人権問題に取り組むきっかけとなった部落問題をはじめとした、さまざまな人権問題に対して啓発活動を行っております。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によって、感染者や医療従事者、関係者家族等への偏見に基づく差別や貧困問題が大きく報道され、改めて人権課題が浮き彫りとなりました。

近年は、SDGs（持続可能な開発目標）が注目されるなか、開発目標として掲げられている17項目のうち、人権に関わるジェンダーや貧困問題について、取り組むことが望まれています。人権センターでは、SDGsは法然上人の万人平等の教えとも合致することから、浄土宗21世紀人権アピールを活用しながら啓発活動について検討を進めております。

今後も、さまざまな人権問題に対応するために、引き続き啓発活動等に注力してまいります。

2. 浄土宗差別戒名物故者追善法要

平成26年度までの差別戒名物故者追善法要は、「僧侶全般の意識啓発と人権意識の向上を図るため」として、平成8年から19回に亘り地方教化センターの協力を得て厳修してきました。

しかし近年では、差別戒名墓石の関係者である寺院住職、継承者の出席が減少し、出席者の多くは役職として出席している方々が多い傾向になっている状況でありました。



地区による差別戒名物故者追善法要

平成27年度からは、より多くの教師にご参加いただけるように各地方教化センター開催の教化高等講習会に併修しておこなっていただくようにしました。その際に人権研修をおこない差別戒名物故者追善法要を通して、僧侶全般の意識啓発と人権意識の向上を図ることを目的としております。

令和2年度は6地区で開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け多くの教化高等講習会が中止となるなか、近畿地区においては、主催教区のご尽力もあり、厳修することができました。法要

と併せておこなっていただく人権研修会は、浄土宗人権同和啓発講師による「差別戒名について」と題しての講演を受講していただき、広く部落問題に起因する差別戒名問題について研鑽していただきました。

また、北陸地区では教化高等講習会のなかで人権啓発研修会として、人権フォーラム石川事務局長の吉田樹氏から「全国水平社宣言について」の講演が行われました。

今後、地区での法要は順次終了していきませんが、引き続き人権研修会の実施と教区での法要厳修をお願いいたします。



人権研修会の様子

3. 差別戒名墓石改正

本宗には、法然上人の万人平等の教えに反して、時代と迎合し「差別戒名」を付与するなど、差別に加担した消すことの出来ない恥すべき事実があり、差別戒名墓石の改正は、昭和58年の同和推進事務局（現 人権センター）の設置以来、長年取り組んでいる課題となっております。

取り組みの結果、関係者の理解のもと、供養塔の建立をはじめとした改正作業が多くの寺院で完了いたしました。

しかしながら、未だ5ヶ寺の改正が残っている状況ですので、今後も引き続き改正作業が進むよう積極的に取り組んでまいります。

4. 教区人権同和研修会開催及び差別戒名物故者追善法要厳修の勧奨

人権センターでは、教区での人権同和研修を推進するため、各教区に対して人権同和研修会開催の勧奨を行っています。多岐にわたる人権課題の中から、各教区において、研修するテーマを定めて、研修を行っていただいています。

また、平成30年度より、各地区の協力を得て厳修しております教化高等講習会での差別戒名物故者追善法要につきまして、さらなるすそ野を広げるため、教区での差別戒名物故者追善法要の厳修をお願いしており、近年では、栃木教区、三河教区、佐賀教区におきまして、法要を厳修いただいています。



佐賀教区差別戒名物故者追善法要

特に佐賀教区は、人権センターからの勧奨以前より法要を厳修されておられ、今回で29回目となります。

5. 教区人権同和委員長連絡会 浄土宗研修会館

令和元年度教区人権同和委員長連絡会を、浄土宗教化研修会館大ホールで開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響をうけ中止となりました。

例年は、事務連絡の後、次年度の人権研修を行う際の参考となるよう、講師を招き講演をおこなっています。



平成30年度ハラスメントについて
実例を交えて
講演いただいた桑野先生

6. 人権同和啓発講師研修会

(令和2年10月28日)

例年、現地へ赴き、フィールドワークを交えた研修を行ってききましたが、令和2年度は他の研修と同じく新型コロナウイルスの影響を受けるなか、人権研修の必要を改めて問い直し、実施方法等を変更のうえで、浄土宗研修会館を主会場にした「新型コロナウイルス禍における人権」をテーマにオンライン（WEB）での研修を行いました。



教化研修会館でも、ソーシャルディスタンスを守りながら講義を受ける啓発講師もおられました。

まず、近畿大学人権研究所教授の北口末廣先生を講師に、新型コロナウイルス感染症問題と人権について、講義いただき、新型コロナウイルスの感染拡大によって起こった、医療従事者や関係者への差別や偏見、情報を見極めるスキルの必要性等、多角的な視点から学びを深めることができました。

次に、浄土宗人権同和啓発講師の長谷川岱潤師から、コロナ禍に浄土宗僧侶としてどう向き合うか、新型コロナウイルスという感染病から見えてきた課題や過去の教訓からハンセン病との関連性の視点から問題点を再確認し、東京教区のアンケートと自身の所属する仏教情報センターのテレホン相談から寺院の現状をふまえて、僧侶として、今なすべきことについて提言がありました。

その後、北口先生や長谷川師からの問題提起や提言に基づいて参加した人権同和啓発講師で意見交換を行いました。

(次回、令和3年度：栃木県 開催予定)

7. 実践講座における人権学習開講

令和2年度も、すべての人の人権が尊重されることを目指し、広く人権問題について宗内の教師、寺族の人権意識向上に努めていただくために、実践講座ともいき編第2回として、「LGBTQを学ぶ」をテーマに人権学習を行いました。

Zoomを利用したオンラインでの研修となりましたが、80名を超える受講者にご参加いただきました。

講義では、京都精華大学非常勤講師のあかたちかこ先生からLGBTQに関する基礎的な講義いただき、その後、LGBTQ当事者であり浄土宗教師でもある西村宏堂師からご自身の経験と浄土宗への期待を中心にご講演いただきました。

最後に、総合研究所主任研究員の袖山榮輝師からLGBTQと仏教の関わりを考えるための基軸を求めため、仏教の戒律を中心に講義をいただきました。

次年度につきましても、よりわかりやすく人権意識を高めていただけるような講座を開講してまいります。



各講師により、WEB上から講義いただきました
写真は、袖山師による自坊から講義の様子

8. 人権アピールロゴマーク

既に宗報でお知らせのとおり、2001年12月に発表された「浄土宗21世紀人権アピール」が、2021年12月で20年を迎えるにあたり、ロゴマークを作成いたしました。

ロゴマークには、私たち一人ひとりが個性豊かな人間であることを確認し、自分や仲間と違うからといって、人を傷つけたり、いじめたり、差別したりせず、法然上人が説かれたお念仏の心で、明るく正しく仲良く平等に生きていくとの思いが込められています。

このロゴマークは、教区内のお知らせ等に使用いただけますので、ご希望の方は人権センターまでお問い合わせください。



あなたとわたし ちがうからステキ
出会えてよかった
あなたのいのち わたしのいのち

9. 啓発グッズ第4弾 マスクケース配布

人権センターでは、12月4日から10日の人権週間にあわせた啓発活動として、多くの寺院の皆様にも人権を考えていただくきっかけになるよう人権啓発グッズを作成、お配りしております。

令和2年度は、浄土宗人権アピールとロゴマークを印刷したマスクケースを作成し全寺院に配布させていただきました。マスクケースを積極的に使用していただきまして、たくさんの人の目に留まるようご活用ください。



R2 年度人権マスクケース



R1 年度コットンバック



H30年度クリアファイル

10. 『和合』での人権課題に関する連載

人権センターでは、平成30年度4月号から『和合』において人権啓発に関する連載を行っています。連載では、令和2年1月号から、なにげなく使用していることばや表現に潜んでいる差別に気付けるように『ことば・表現・差別～「あたり前」をうたがう～』と題しておとなの学び研究会に依頼しています。

令和3年は更に人種、民族差別、LGBTQ をめぐってことば、表現から考える連載を行います。

また、平成30年と平成31（令和元）年の出口芳演師、松波めぐみ氏の連載につきましては、冊子にまとめ全寺院に配布いたしました。

11. 人権啓発パネル展 in 東海学園大学(12月7～11日)

平成29年度より、人権センター主催の人権啓発パネル展を開催しております。

令和2年度は、12月7日～11日まで東海学園大学の協力を得て、子どもの人権に関するパネル展を開催いたしました。

なお、予定していた、大正大学及び京都華頂大学でのパネル展は中止となりました。

1.2. 『浄土宗人権教育シリーズ』

研修会などで教材として使っていただくため、啓発冊子「浄土宗人権教育シリーズ」を刊行しています。
是非、積極的にご活用いただきたいと存じます。



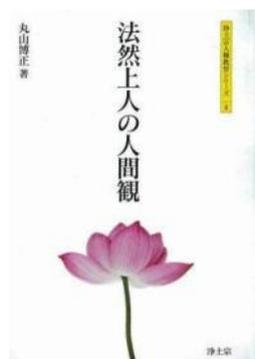
浄土宗人権教育シリーズ 1
『平等へのめざめ』
平成 18 年 11 月 発行
(A5 版 291 ページ ¥1,296 税込)
※4部 15章構成
第一部 「部落史」に学ぶ
第二部 仏教の歴史と人間観の変容
第三部 釈尊と法然の教え
第四部 仏教教団の過誤と差別へのめざめ



浄土宗人権教育シリーズ 2
『社会がなした病 ハンセン病差別と仏教』
平成 19 年 5 月 発行 (山本正廣師著)
(A5 版 96 ページ ¥648 税込)
※2章構成
第一章 誤解されているハンセン病
第二章 日本人のハンセン病観の形成



浄土宗人権教育シリーズ 3
『仏教における女性観』
平成 19 年 8 月 発行 (伊藤唯眞師著)
(A5 版 71 ページ ¥648 税込)
※3章構成
第一章 インド・中国の女性観
第二章 日本仏教での女性観
第三章 法然上人の「女人往生」思想



浄土宗人権教育シリーズ 4
『法然上人の人間観』
平成 20 年 9 月 発行 (丸山博正師著)
(A5 版 78 ページ ¥648 税込)
※3章構成
第一章 法然上人の文献
第二章 教義は『選択集』
第三章 み教えから探る人間観



浄土宗人権教育シリーズ 5
『業を見すえて』
平成 25 年 9 月 発行
(A5 版 179 ページ ¥972 税込)
※4章構成
第一章 仏教の業思想
第二章 日本の業思想
第三章 法然上人と業
第四章 まとめ
Q&A ほか



浄土宗21世紀

人権アピール

あなたとわたし
ちがうからステキ
出会えてよかった
あなたのいのち
わたしのいのち

令和3年3月

発行 浄土宗人権センター